Vol.2009-CH-83 No.3
2009/7/25

地図・地名データベース

桶谷　猪久夫†

歴史的なデジタル地名辞典は人文科学分野で地理情報システムでの解析に不可欠のツールになってきている．デジタル地名辞書の基礎となる「大日本地名辞書」は，吉田東吾が 13 年間で書き上げ，1907 年に完成した全国の地誌で，5,580 頁以上，1,200 万字の地名辞書であり，その構築とデータベース化を実現した．また，延喜式に記載された神社（式内社）2,861 社と 78,588 の寺院のデータベース化とそれらの位置情報等との統合も実現した．さらに，日本で最初に測量された全国地図である仮製図（近畿地方）と迅速図（関東地方）をスキャンし，行政界（市町村界まで）をオーバーレイ処理し，水部（川，湖など），道路などをポリゴンデータやラインデータとして取り込んでいる．また，地形図から地名データ（郡，町，村，字，神社，寺院，川など）を読み取り（19,328 件）緯度経度を付与した．地名データ（郡，町，村，神社，寺院，川など）は地名辞書に格納した．地形図データベースは，ソフト Zoomify で，大きな画像を拡大，縮小，移動等を可能にし，インターネット上のブラウザから容易に閲覧可能にした．

The Database of Topographical Maps and Place Names

Ikuo Oketani†

Historical digital gazetteer is essential tool for humanities GIS data or ganization. Therefore, we developed the database for the index of *Dainihon Chimeijisho* (*The Dictionary of Place Names in Greater Japan*) edited by Togo Yoshida in 1900 and completed in 1907. Also, we merged Shikinaisya (Shrines registered with Jinmyocho of Engishiki, 2,842 shrines) and *Jiinn* (Japanese Temple name, 78,588 temples) with Dainihon Chimeijisho. Furthermore, we constructed the topographical maps database. Two topographical maps called *Jinsoku-zu* Maps (Kinki region) and *Kasei-zu* Maps (Kanto region) are part of the first measured maps which cover the entire country. We scanned these maps, overlying the administrative borders, and processed the water areas (rivers and lakes, etc.) and roads, etc. as polygon and line data. We also provided the place data (counties, towns, villages, shrines, temples, rivers, etc.) on these maps with their longitude of latitude. And then, we stored these place name data (19,328 place names）in the this digital gazetteer. And we made the visual data in the topographical maps database accessible and retrievable on the internet. They can be enlarged, reduced or transfered by Zoomify.

1. はじめに

近年の地理情報システム(GIS:Geographic Information System) の急速な普及により，考古学，民俗学，歴史学，地域研究といった人文科学の各分野においても，デジタル化された地図などの地理情報との連携が共同研究支援に有効になってきている．しかし，海外における時空間情報を利用した人文科学研究の事例は増えつつあるが，国内では，人文科学分野の研究に有効なデジタル地名辞書などの研究基盤となるツールが皆無に近いのが現状である．

このような状況下で，我々は歴史的なデジタル地名辞書等の作成，有効なデータベース化と共同開発した地理情報共有システム (HuMAP :Geographic Information Sharing System for Humanities) とのインターフェースを開発した．デジタル地名辞書の基礎となる「大日本地名辞書」は，吉田東吾（1864 年～1918 年）が 32 歳から 44 歳にわたる 13 年間で書き上げ，1907 年に完成した全国の地誌である「大日本地名辞書」（全 11 巻），5,580 頁以上，1,200 万字の地名辞書であり，その構築とデータベース化を実現した．また，延喜式巻 9 と巻 10（延喜式神名帳）に記載された神社（式内社）2,861 社とそこに鎮座する神の数 3,132 座と日本寺院総監に記載された 78,588 寺院のデータベース化とそれらの位置情報等との統合も実現した．さらに，日本で最初に測量された全国地図である仮製図（近畿地方）と迅速図（関東地方）をスキャンし，行政界（市町村界まで）をオーバーレイ処理し，水部（川，湖など），道路などをポリゴンデータやラインデータとして取り込んでいる．また，地形図から地名データ（郡，町，村，字，字，神社，寺院，川など）を読み取り（19,356 件）緯度経度を付与した．地名データ（郡，町，村，字，神社，寺院，川など）は地名辞書に格納した．

最後に，我々が本デジタル地名辞書に付与した地名属性からみた地名の特徴や地名属性ごとの分布状況等についても簡単に述べる．

† 大阪国際大学　国際コミュニケーション学部
Osaka International University

ⓒ2009 Information Processing Society of Japan

Vol.2009-CH-83 No.3
2009/7/25

2. デジタル地名辞書データベース構築の目的と直接対象とする各文献

最近，考古学，民俗学，歴史学，地域研究といった人文科学の各分野においても，デジタル化された地図や地理情報との連携が共同研究支援に有効になってきている．また，我々が共同開発した地理情報共有システム (HuMAP :Geographic Information Sharing System for Humanities) の基礎データとしてのデジタル地名辞書のデータベース化と GIS とのインターフェースの実現は必要不可欠な状況になってきた．

以下に，デジタル地名辞書データベース構築において直接対象とした各文献を簡単に説明する．

(1) 大日本地名辞書（吉田東伍著）[1]

デジタル地名辞書の基礎となる大日本地名辞書(*The Dictionary of Place Names in Greater Japan)* は，吉田東伍（1864 年：元治元年～1918 年：大正 7 年）が 1895 年（明治 28 年）から日本には統一した地誌がないことに着目し，地名辞書の編纂を決意，独力で 13 年かけて編纂した日本で最初の本格的な地名辞書である．国土の国名，郡名，町村名，郷名，神社，寺院，山川，湖沼，港湾などの地名に関する考証・変遷などが詳しく解説されている．索引には 53,676 に及ぶ地名が「漢字」と「仮名」により記述されている．本デジタル地名辞書データベースでは，大日本地名辞書の索引部をベースに，地名の漢字，仮名ヨミ，ローマ字表記，国・郡・郷，地名の形状，地名属性など地理的包含関係，現在の市町村との対応付け（平成大合併も含む），緯度・経度を付与しデジタル化を行った．さらに，地名の変遷情報についても可能限り付与した．

大日本地名辞書は，明治 33 年に初版が発行され，刊行から百年以上も経た現在でも地理学，歴史，古典文学や民俗学の研究に必要不可欠な基礎資料として活用されている．大日本地名辞書の収録範囲は，第１巻から第８巻まであり，各地域別に分けて掲載されている．初版は全 11 巻からなり，総ページ数は 5,580 ページ，1,200 万文字で構成されている．その後増補され，現在，日本全土（北海道から沖縄（琉球））までが収録されている．その内容は，以下のようになっている．

第１巻　凡論・索引
第２巻　上方　(現在の近畿地方)
第３巻　四国・中国
第４巻　西国　(現在の九州地方)
第５巻　東国・北国　(現在の中部地方)
第６巻　坂東　(現在の関東地方)
第７巻　奥羽　(現在の東北地方)
第８巻　琉球・台湾・北海道・樺太

大日本地名辞書の冊子を図１に，具体的な地名が記述されている第１巻の索引部の例を図２に示す．また，表１に地名辞書索引部に掲載された地名（漢字と仮名）の地域毎の合計と総数を示す．

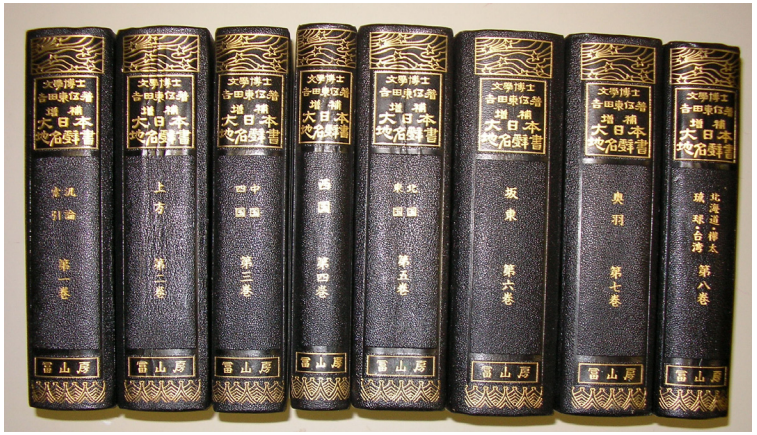

図１　「大日本地名辞書　第１巻～８巻」冨山房の冊子の例

ア

藍（アイ）（摂津）　2・六二一
阿井（アイ）（出雲）　3・四〇〇
秋穂（アイオ）（周防）　3・五六三
相生橋（アイオイ）（羽前）　7・六九〇
相合（アイオウ）（安芸）　3・四八〇
相河（アイカ）（越後）　5・三五九
相賀（アイカ）（常陸）　6・一二五一
秋鹿（アイカ）（出雲）　3・三七五
遇鹿（アイカ）（常陸）　6・一二五一
合貝（アイカイ）（羽前）　7・七六五
合海（アイカイ）（羽前）　7・七六四
秋鹿郡（アイカ）（出雲）　3・三七三
相神（アイカミ）（能登）　5・一二三
相神浦川（アイカミウラ）（肥前）　4・三〇八
合川（アイカワ）（羽前）　7・七六五
相川（アイカワ）（越後）　5・三五九
相川（アイカワ）（佐渡）　5・三八三
相川（アイカワ）（甲斐）　5・八四〇
相川（アイカワ）（駿河）　5・九五三
相川（アイカワ）（羽後）　7・八八二
相川（アイカワ）（羽後）　7・九五〇
相川（アイカワ）（美濃）　5・四〇三
鮎川（アイカワ）（近江）　2・六八〇
鮎川（アイカワ）（羽後）　7・八八二
鮎川（アイカワ）（上野）　6・七四一
安威川（アイカワ）（摂津）　2・五七三
藍川郷（アイカワ）（美濃）　5・四〇五
相川鉱山（アイカワ）（佐渡）　5・三八三
合川山（アイカワ）（美濃）　5・四〇一
相木（アイキ）（信濃）　5・八〇四
阿育王塔（アイクオウ）（近江）　2・六九九
合蚕（アイコ）（肥前）　4・三三五
相子（アイコ）（肥前）　4・三三五
愛甲（アイコウ）（相摸）　6・五八
安威郷（アイ）（摂津）　2・五七三
阿位郷（アイ）（出雲）　3・四〇〇
愛甲熊野社（アイコウ）（相摸）　6・五八
愛甲郡（アイコウ）（相摸）　6・五七
相坂（アイサカ）（陸奥）　7・一〇一七

図２　大日本地名辞書第１巻に掲載されている索引部の例

ⓒ2009 Information Processing Society of Japan

表 1　大日本地名辞書索引部の地名(漢字と仮名）の総数

	地名数
日本(Japan)	52,547
北海道(Hokkaido)	2,585
琉球(Ryukyu)	879
その他(Others)	49,083
樺太(Sakhalin)	467
台湾(Taiwan)	942
合計(Total)	53,956

(2) 式内社[2][3]

延喜式全 50 巻のうち第 1 巻から第 10 巻が神祇関係（神祇式）で，第 9 巻と第 10 巻が延喜式神名帳といわれ,そこに記載された神社を式内社と言い社格の一つとされ，当時朝廷から「官社」として重要視された神社であることを示している．延喜式神名帳に記載された神社（式内社）は全国で 2,861 社で，そこに鎮座する神の数は 3,132 座である.「神名帳」とは，古代律令制における神祇官が作成していた官社の一覧表のことあり，そこには国名，郡名別に神社が記載されており，また祭神，社格なども記載されている．

(3) 日本寺院総監

日本寺院総監データを元に，旧国名，旧郡名と片仮名読みの付与，現在の市町村との対応付け, さらに位置情報, 緯度･経度を付与しデジタル化を行った (78,588 寺院).

(4) 仮製図・迅速図[4]

迅速測図が関東で測量され地図の発行がされていたのに対し，関西では第四師管で准正式地形図の測図が実施された．これはのちに仮製図と呼ばれているものである．

京都の場合，京都中心部については，1889 年（明治 22 年）に測量され，1892 年（明治 25 年）に仮製地形図として出版された．その範囲は狭く，明治から大正末期にかけて測図され 5 万分の 1 の地形図が完成している．日本で最初に測量された全国地図である仮製図（近畿地方）と迅速図（関東地方）をスキャンし，行政界（市町村界まで）をオーバーレイ処理し，水部（川，湖など），道路などをポリゴンデータやラインデータとして取り込んだ．また，地形図から地名データ（郡，町，村，字，神社，寺院，川など）を読み取り（19, 328 件）それらに緯度経度を付与した．

3. デジタル日本地名辞書データベースの概要と検索機能

我々は, デジタル地名辞書データベースを近年有力な研究基盤となっている Web 上で設計し，各種の項目を利用し検索できるように開発・構築した．つまり，Web 上から大日本地名辞書での旧国名，郡名，町村名，郷名などの行政地名だけでなく，神社名，寺院名などの建物，河川，湖沼，港湾などの水部，山，岳，峠などの地形からも検索可能であり，その位置情報（緯度，経度）と日本国土地理院の 25,000 分の 1 の地図情報や Google マップでの地図・航空写真との連携化を実現した．

3.1 デジタル地名辞書のデータ項目と構造

有効な検索機能を実現するため，以下のようなデータ項目で設計した．

・ID：全レコードについてユニークな数字
・地名：漢字，仮名表示，ローマ字表記
・郡名：地名が包含される旧郡名，漢字，仮名表示，ローマ字表記
・国名：地名が包含される旧国名，漢字，仮名表示，ローマ字表記
・比定地名：地名に対応する現在の地名，漢字，仮名表示，ローマ字表記
・平成大改訂の地名：漢字，仮名表示，ローマ字表記
・形状：地名が表す場所が，点，線，面であるかの区別
・位置記述法：点，線，矩形，多角形
・緯度：地名を代表する地点の緯度
・経度：地名を代表する地点の経度，記述法は緯度に準ずるものとする．
・地名属性：行政地名，山，岳，河川，湖沼，湾，建物（神社，寺院），橋など
・上限時代：その地名が有効であった上限年代(yymmdd)
・下限時代：その地名が有効であった下限年代(yymmdd)
・大日本地名辞書の巻号，該当ページ（拡張を考慮）
・備考：緯度・経度・地名の比定に関わる情報

基礎資料である大日本地名辞書の索引部の各地名を 1 レコードと見なし，各種の項目情報での検索を実現するために前述の各種データ項目を定義・作成している．

簡便な Web ブラウザを利用し，XML(Extensible Markup Language)タグを有効に利用した，効率的で融通性のある検索を実行するため，全文検索システムとしてパトシリア(Patricia)ツリー方式を採用しているデータベース管理システム(カナダ，OpenText 社)を格納構造として利用し, それに備わっている高速テキスト検索に有効なツールで, コマンド･モードで実行可能な高速検索エンジン PAT70 を利用した[10][11][12][13]．各種データ項目は，マークアップ言語(XML：Extensible Markup Language)でタグ付け

ⓒ2009 Information Processing Society of Japan

される．地名の各種データ項目の文書型定義 DTD(Document Type Definition)の例を以下に示す．

［デジタル地名辞書の文書型定義 DTD の例］

```
  <?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
- <togo>
- <vol no="2">
        ・
        ・
        ・
- <item pid="43024">
  <itemcountry>山城</itemcountry>
  <itemcounty>宇治郡</itemcounty>
  <countyreading>ウジ</countyreading>
  <placename reading="マンプクジ">万福寺</placename>
  <pname1>宇治市</pname1>
  <pname2 />
  <pname3 />
  <shp>1</shp>
  <loc>1</loc>
  <lat>34.54.53</lat>
  <long>135.48.22</long>
  <lat2 />
  <long2 />
  <altname>黄檗山萬福寺</altname>
  <parent />
  <attribute>13</attribute>
  <page>239</page>
  <remarks />
  </item>
```

3.2 デジタル地名辞書の検索機能

具体的な検索例として，日本三禅宗(臨済・曹洞・黄檗)の一つ，隠元禅師など中国の名僧を原点とする黄檗宗の大本山で京都府宇治市にある「黄檗山万福寺」を検索文字列（キーワード）として指定し，検索した結果を示す．検索方法は，プロジェクトの HP，http://pnc-ecai.oiu.ac.jp/chimei/ を立ち上げ，検索メニュから検索対象の国名を指定（山城），該当する地名（万福寺）を入力したデジタル地名辞書検索システムの検索画面を図３に示す．図４は検索結果表示画面であり，検索後「山城」と「万福寺」でヒットした一覧が表示される．この場合は，ヒット数（：３）が表示され，その内容が項目毎（国名，郡名，地名，現在地名，地名属性：建物　寺院）に表示されている．また，場所が一箇所に否定できなかった場合は備考が表示される．左側の「詳細」をクリックすると該当する「万福寺」の地名，ヨミ，国名，郡名，緯度，経度，現在の住所や地名属性（建物・神社）等が詳細に図５に表示される．「地図」情報の「国土地理院地図を表示」をクリックすると，その所在情報が国土地理院 MAP（25,000 分の１）で，「Google マップを表示」をクリックすると，その所在情報が詳細マップ，または航空写真で表示される．図６は，「万福寺」の所在地を表示した GoogleMap の航空写真である．

図３　デジタル地名辞書検索システムの検索画面

ⓒ2009 Information Processing Society of Japan

Vol.2009-CH-83 No.3
2009/7/25

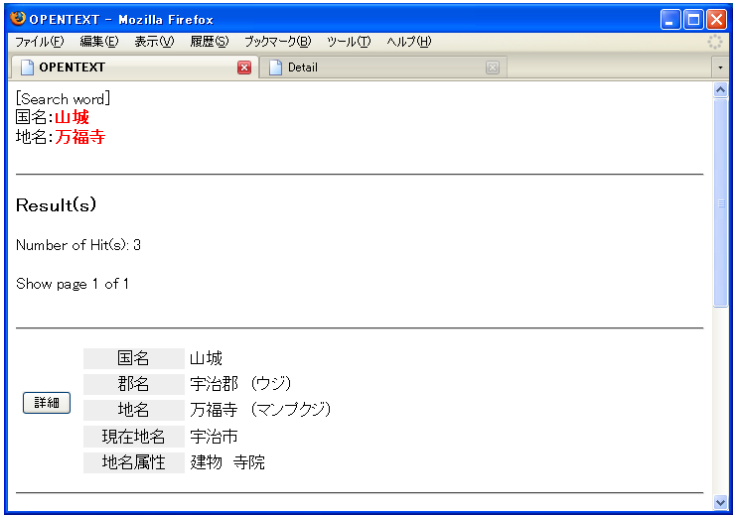

図４　デジタル地名辞書検索システムの検索結果表示画面

図５　デジタル地名辞書検索システムの検索結果詳細表示画面

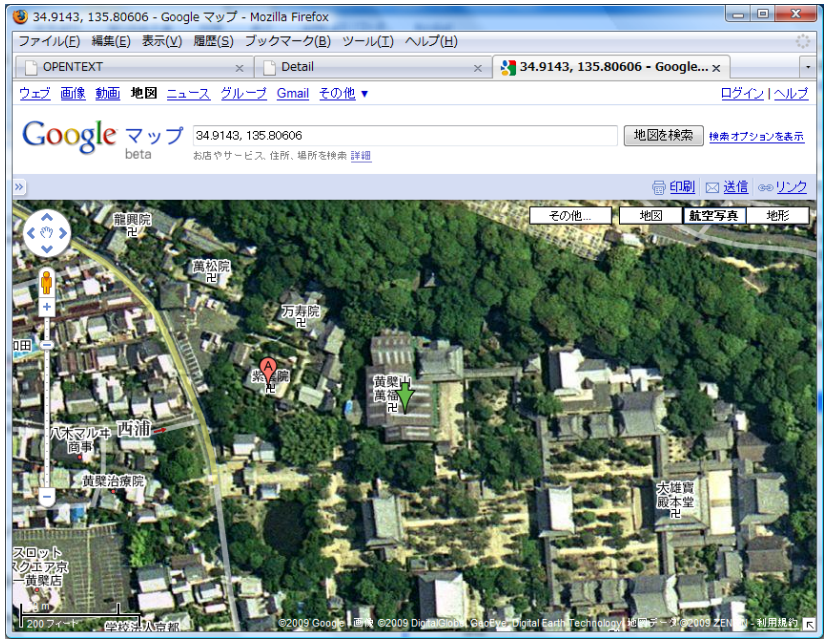

図６　検索結果の該当所在地（万福寺）の GoogleMap 表示画面

仮製図（近畿地方）と迅速図（関東地方）は，日本で最初に測量された全国地図である．この地図をスキャン（600dpi,RGB,TIFF 形式）し，行政界（市町村界まで）をオーバーレイ処理し，水部（川，湖など），道路などをポリゴンデータやラインデータとして取り込んでいる．また，地形図から地名を読み取り（19,328 件）緯度経度を付与した．対象とした仮製図（近畿地方）と迅速図（関東地方）は，国土地理院５万分の１を利用し，地域として兵庫県，奈良県，京都府，大阪府，関東地方，それから茨城から岡山までがカバーされている．その枚数は 426 枚に達する．なお，各地形図に４点座標を付与し，行政界や水部（川，湖など），道路などのポリゴンデータやラインデータとのオーバーレイ処理のため Shp ファイルを作成した．

地名データ（郡，町，村，字，神社，寺院，川など）は，地形図上から緯度経度が付与され地名辞書に格納され，地形図データベースは，大きな画像を Flash を利用して，拡大，縮小，移動等を可能にしてインターネット上のブラウザから通覧できる形式に変換するソフト Zoomify を利用して構築した．

仮製図・迅速図の地形図の一覧（各地形図４点座標付与）を表２に示す．

ⓒ2009 Information Processing Society of Japan

Vol.2009-CH-83 No.3
2009/7/25

表２　仮製図・迅速図の地形図一覧

図郭名	測量年	発行年月日	リスト番号	白黒	種類	測量年		東	西	南	北
坊勢島	明28	M34.3.30	105-5-1	*	測図	明	28	134.7528903	134.5028903	34.5000000	34.6666667
寒霞溪	明30	M34.3.30	105-9-1	*	測図	明	30	134.5028903	134.2528903	34.5000000	34.6666667
明石	明29	M34.3.30	105-1-1	*	測図	明	29	135.0028903	134.7528903	34.5000000	34.6666667
洲本	明32	発行年月日記載なし	105-2-1	*	測図	明	32	135.0028903	134.7528903	34.3333333	34.5000000
由良	明29	発行年月日記載なし	105-3-1	*	測図	明	29	135.0028903	134.7528903	34.1666667	34.3333333
鳴門海峡	明29	発行年月日記載なし	105-7-1	*	測図	明	29	134.7528903	134.5028903	34.1666667	34.3333333
播州赤穂	明28	M34.3.30	104-12-1	*	測図	明	28	134.5028903	134.2528903	34.6666667	34.8333333
上郡	明30	M34.3.30	104-11-1	*	測図	明	30	134.5028903	134.2528903	34.8333333	35.0000000
佐用	明30	M34.3.30	104-10-1	*	測図	明	30	134.5028903	134.2528903	35.0000000	35.1666667
坂根	明31	M34.3.30	104-9-1	*	測図	明	31	134.5028903	134.2528903	35.1666667	35.3333333
大屋市場	明31	M34.3.30	104-5-1	*	測図	明	31	134.7528903	134.5028903	35.1666667	35.3333333
山崎	明30	M34.3.30	104-6-1	*	測図	明	30	134.7528903	134.5028903	35.0000000	35.1666667
龍野	明30	M35.6.30	104-7-19		測図	明	30	134.7528903	134.5028903	34.8333333	35.0000000
姫路	明28	M34.3.30	104-8-1	*	測図	明	28	134.7528903	134.5028903	34.6666667	34.8333333
高砂	明29	M34.3.30	104-4-1	*	測図	明	29	135.0028903	134.7528903	34.6666667	34.8333333
北条	明30	M34.3.30	104-3-1	*	測図	明	30	135.0028903	134.7528903	34.8333333	35.0000000
生野	明30	M34.3.30	104-2-1	*	測図	明	30	135.0028903	134.7528903	35.0000000	35.1666667
但馬竹田	明31	M34.3.30	104-1-1	*	測図	明	31	135.0028903	134.7528903	35.1666667	35.3333333
若桜	明31	M34.3.30	103-12-1	*	測図	明	31	134.5028903	134.2528903	35.3333333	35.5000000

具体的な検索例として，巨椋湖（おぐらのいけ）を検索し，国土地理院 MAP（25,000 分の１）や Google マップで表示したとき，広大な田地が広がっているだけである．現在の京都市伏見区の南部から宇治市の西部,久御山町の北東部にかけて昭和 16 年に干拓が完了するまで巨椋湖という巨大な湖が存在していた．その大きさは，時代と共に変わっているが，およそ東西 4km，南北 3km，周囲 16km，水域面積は約 800ha であり，京都府で最大の面積を持つ淡水湖であった．検索方法は，前と同じくプロジェクトの HP，http://pnc-ecai.oiu.ac.jp/chimei/ を立ち上げ，検索メニュから検索対象の国名を指定（山城），該当する地名（巨椋湖）を入力し検索する．図７は検索結果表示画面であり，検索後「山城」と「巨椋湖」でヒットした一覧が表示される．この場合は，ヒット数（：２）が表示され，その内容が項目毎に表示されている．仮製図・迅速図の左側の「詳細」をクリックすると該当する「巨椋湖」の詳細が図８に表示される．「地図」情報の「国土地理院地図を表示」や「Google マップを表示」では，広大な田地が広がっているだけである．ここで，デジタル地名辞書検索システムの検索結果詳細表示画面で，項目で図歴画像の「この画像を表示する」をクリックすると大きな画像を Flash を利用して，インターネット上のブラウザから通覧できる形式に変換するソフト Zoomify を利用して「巨椋湖」の所在地を表示した仮製図が図９に表示される．Map は，自由に拡大，縮小，移動等が可能である．

図７　デジタル地名辞書検索システムの検索結果（巨椋湖）表示画面

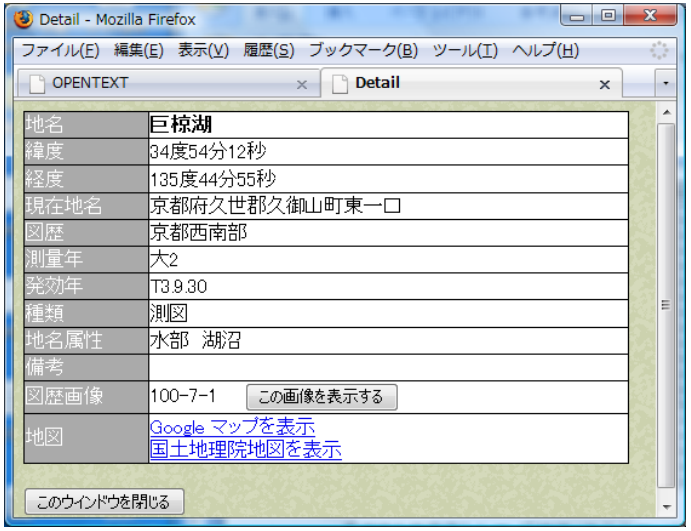

図８　デジタル地名辞書検索システムの検索結果（巨椋湖）詳細表示画面

ⓒ2009 Information Processing Society of Japan

Vol.2009-CH-83 No.3
2009/7/25

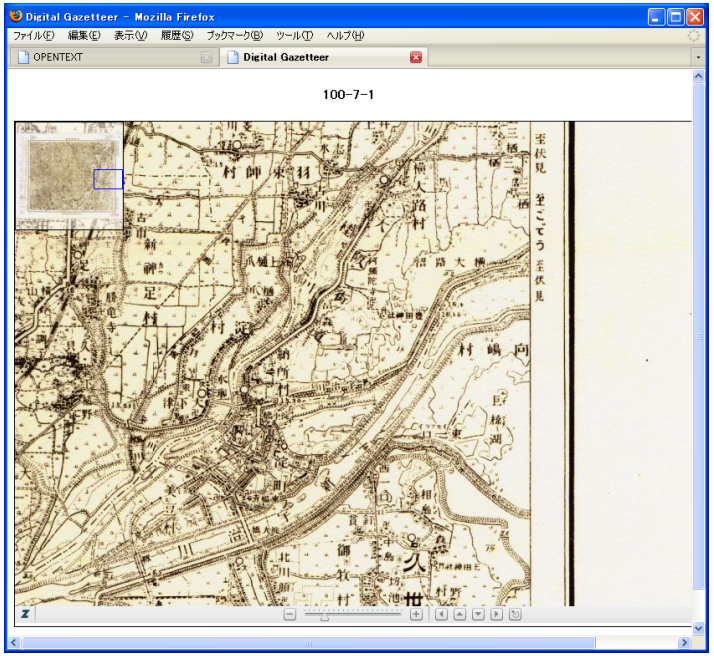

図９　検索結果の該当所在地（巨椋湖）の仮製図表示画面面

4. デジタル地名辞書からみた地名の特徴や地名属性ごとの分布状況

デジタル地名辞書は，考古学，言語学，民俗学，歴史学，国文学，信仰・文化，地誌，地域研究といった人文科学の各分野の研究にとって重要な役割を果たし，またそれら関連分野の共同研究支援に有効である．北海道から沖縄（琉球）までの全国の行政地名（地方，国，郡，町，村，字），建物（神社，寺院，橋など），水部（河川，湖沼，港湾など），地形（山，岳，峠，坂，谷など）などの地名属性を入力することにより，その地方の自然，風土，文化，精神史の研究などにも利用できるようにデジタル地名辞書を設計し構築した．その地名属性の属性番号を半角数字で対応を取りながら入力した．

本デジタル地名辞書には，寺院（地名属性番号：13）が 78,588 寺院格納されている．この中で，日本の中心的な仏教である浄土真宗本願寺派，浄土真宗大谷派，浄土宗の寺院数を都道府県名でみると順位として，浄土真宗本願寺派は，大阪府（854 寺），兵庫県(747 寺)，富山県(620 寺)，滋賀県(610 寺)，福岡県(601 寺)と浄土真宗の影響が強い北陸と西日本に寺院が多く分布している（図１０）．浄土真宗大谷派は，愛知県（1,090 寺），石川県(853 寺)，新潟県(817 寺)，滋賀県(771 寺)，岐阜県(756 寺)と中部地方，特に北陸（石川県と新潟県）に多く分布している（図１１）．浄土宗は，愛知県（1,030 寺），京都府(844 寺)，大阪府(518 寺)，滋賀県(489 寺)，東京都(434 寺)と全国的に分布しているが関東，中部地方，関西地方（京都府，大阪府，滋賀県）に多く分布している（図１２）．

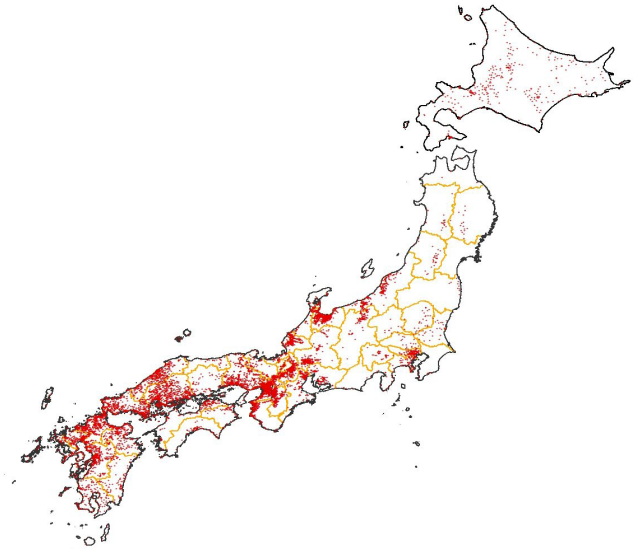

図１０　浄土真宗本願寺派寺院の分布

5. まとめと今後の課題

本デジタル地名辞書は，URL：http://pnc-ecai.oiu.ac.jp/timei/で公開・運用されている[8]．また，大日本地名辞書に記載されていた神社数 3,364 社と延喜式の延喜式神名帳といわれる第９巻と 10 巻に掲載された神社である式内社（2,861 社，そこに鎮座する神の数は 3,132 座）や日本寺院データ（78,588 寺院）との統合も実現している．さらに，日本で最初に測量された全国地図である仮製図と迅速図をスキャンし，行政界（市町村界まで）をオーバーレイ処理し，水部（川，湖など），道路などをポ

ⓒ2009 Information Processing Society of Japan

Vol.2009-CH-83 No.3
2009/7/25

リゴンデータやラインデータとして取り込み地形図データベースを構築した．

当然，地名辞書の役割として我々が共同開発した地理情報共有システム (HuMAP) とのインターフェースを開発し使用可能になっている．

今後の課題として、地形図データベースの拡充とこの間に何回もあった市町村数の変遷（合併等）を考慮し，明治元年段階の「旧村名」，「旧領名」，「取調旧高」を記述した旧高旧領取調張に記載された村（65,210 村）のデジタル地名辞書を構築する計画である．

参考文献

1) 吉田東伍著，『大日本地名辞書　第１巻～８巻』冨山房，明治 40 年 10 月 13 日初版発行，昭和 46 年 11 月 25 日増補版発行，昭和 47 年 4 月 20 日同再版発行
2) 新訂増補　國史大系，『延喜式前篇』，吉川弘文館，1979.5.20, pp.1 - 322
3) 式内社研究会編纂，『式内社調査報告　第１巻～第 24 巻』，皇學館大学出版部，1979.2.20
4) ５万，２万５千分１地形図図歴　http://www.gsi.go.jp/MAP/HISTORY/5-25-index5-25.html
5) Ikuo Oketani, Mitsuru Aida, "Creation and Application of Japanese Historical Gazetteer - Ontological Approach to Geographical Name and Place – ", PNC (Pacific Neighborhood Consortium) 2006 Annual Conference in Conjunction with PRDLA & ECAI, Seoul National University, Korea, Program and Abstracts, pp.49 - 50, http://pnclink.org:8080/pnc2006/program_detail%20Humanity%20GIS.jsp, pp. 1 -24(CD-ROM), August 15-18, 2006　Itoh, S. and Goto, N.: An Adaptive Noiseless Coding for Sources with Big Alphabet Size, Trans. IEICE, Vol.E74, No.9, pp.2495-2503 (1991).
6) 桶谷猪久夫，前川武，『式内社データベースも構築と分布の調査』，大阪国際大学紀要「大阪国際論叢」第 20 巻第 2 号，pp.49 - 62, 2007.1.31
7) Shoichiro Hara, Ikuo Oketani, “Reconstruction of Historical Landscape – In the context of Ancient Shrines and their Surrounding Features – “, PNC (Pacific Neighborhood Consortium) 2006 Annual Conference in Conjunction with PRDLA & ECAI, Seoul National University, Korea, Program and Abstracts, pp.52 - 52, pp. 1 -　36 (CD-ROM), August　15 - 18, 2006
8) 「大日本地名辞書データベース」ホームページ　http://pnc-ecai.oiu.ac.jp/chimei
9) 「ArcGIS 9 ArcMap ユーザーズ・ガイド」，ESRI ジャパン株式会社，pp.3 - 587, 2004.7.12
10) Infocom Corporation, OpenText7 データベース管理者ガイド
11) Infocom Corporation, OpenText7 データベース管理リファレンス・ガイド
12) Infocom Corporation, OenText7 PAT Tutorial，マニュアル
13) Infocom Corporation, OpenText7 PAT リファレンス，マニュアル

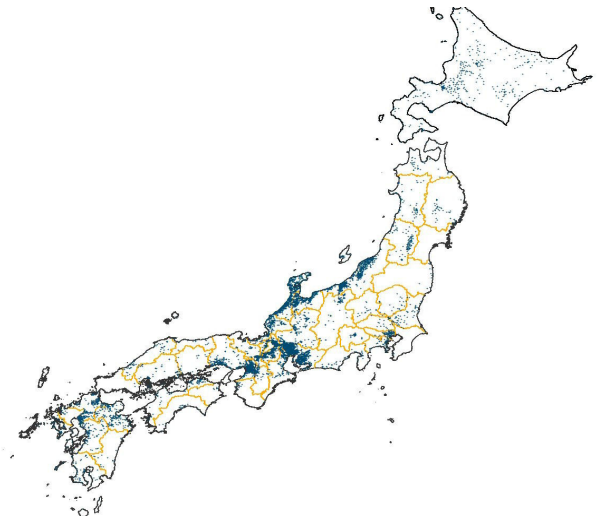

図１１　浄土真宗大谷派寺院の分布

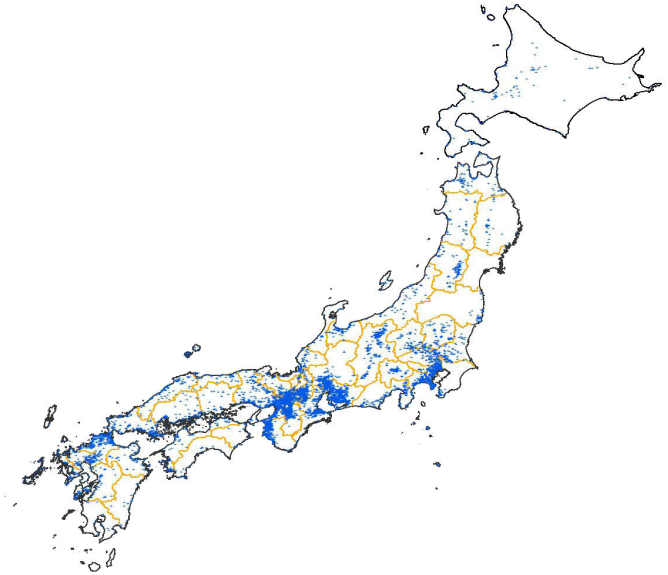

図１２　浄土宗寺院の分布

ⓒ2009 Information Processing Society of Japan